

みんなで築き上げるサステナブルな町” Hachioji ”

グループ名 46期前田ゼミ

浅井大也 創価大学 法学部 法律学科 前田ゼミ, 遠藤久男 創価大学 法学部 法律学科
前田ゼミ, 清洲一稀 創価大学 法学部 法律学科 前田ゼミ, 清水香織 創価大学 法学部
法律学科 前田ゼミ, 高岡正輝 創価大学 法学部 法律学科 前田ゼミ, 大西正義 創価大学
法学部 法律学科
指導教員 前田幸男 創価大学 法学部 法律学科

要約

私たちは八王子市における環境問題への取り組みを閲覧したうえで、より庶民レベルで環境問題を八王子市から解決していく独自の政策を提案することはできないかと考えた。今回のコンソーシアムでは、八王子におけるエコポイント導入における地域経済発展への提案により省エネを促進させることができないのか、また、太陽光発電をいかにして地域に根付かせるかについて検討したうえで、市民、企業、行政が連携できた太陽光事業の発展、普及についてプレゼンを行い、提案する。

キーワード：地域経済、地産地消、市民の主体性

1. はじめに

現在、横浜市では、「横浜スマートシティプロジェクト」として、実証事業を行っている。その内容は、既成市街地でのエネルギー需給バランスの最適化に向けたシステムの導入などであり、エネルギー関係事業者や 電気メーカー、建設会社など計34社と横浜市が連携し、取り組んでいる。また、新潟市では、市民によって活動している「おらって」にいがた市民エネルギー協議会が存在しており、各県で環境問題、その中でも、地球温暖化に対する対策が立てられているのである。しかし、八王子には、横浜市に匹敵するほどの財政が存在するわけでも、新潟のように市民が事業を行っているわけでもない。そのため、本発表では、八王子におけるそのどちらともを課題とすることで成り立つ事業の提案を表明する。

2. 八王子における省エネ、太陽光発電事業

現在、八王子は平成29年に策定された環境白書を基に環境問題を明確化し、効率的な解決を導こうと動いている。本プレゼンでの関連を考えると、三つの「省エネ応援プロジェクト」や、四つの「環境教育サポート」、五つの「地球の環境美化プロジェクト」が関連しており、市としてもいくつかは動き出している。しかし、そのプロジェクトの中ではいくつか課題が存在することも事実である。まず1点目、省エネについては、八王子市の独自の「はちおうじ省エネ国」が施策されているのだが、この会員を増やすことが主な目的となるあまり、本来の目的を見失っていることである。つまり、会員になったとしても温暖化のために会員になるという

方が少ないということである。また2点目、太陽光発電システムについての八王子市の動きとしては、太陽光発電システム1キロワットあたり2万円（上限10万円）の補助金を設けているのだが、太陽光発電を設置することや、その維持等に費用がかかりてしまい、10～20年で利益が出ることから、市民には無関係なものとして取り上げられてしまうのではないかと考える。

3. 八王子における省エネ、太陽光発電の提案

上記にあげられる課題点から、本プレゼンにおいてわたしたちが提案する事業は、省エネと太陽光関連に分け、二つある。

A. 省エネについて

省エネに関しては、現在運用されている「はちおうじ省エネ国」の発展のためのアイデアを提案する。大まかな概要としては、エコポイントの利用の方法と獲得方法の改善である。現在の「はちおうじ省エネ国」のエコポイントの利用、獲得方法は、八王子お店大賞受賞店や、道の駅における金券1200円分の引き換え、高尾山のリフト券や各園の利用券の引き換えであるが、そういった地域経済の発展に加えて省エネの要素を加えていくべきではないかと考える。例えば、獲得方法の中に、ドイツなどで推進されている「パッシブハウス」(図1参照)のような環境に良い家に新築、またはリフォームを行えば、多大なポイントの贈呈をすることができる、また、そのポイントの利用方法としては、市内のエコバスに乗る際に使用することができるようになるとや、豊田市における利用方法の一つの例として環境税へのポイント利用を推進することを提案できると考え

る。

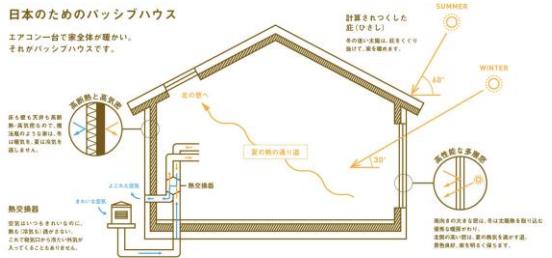


図 1

B.太陽光発電事業

次に太陽光発電事業について述べる。新潟市の「おらって」にいがた市民エネルギー協議会では、市民が主体となって動くことで行政をも動かしたもので、市民、企業、行政が綿密に計画し、また、賛同していったうえで行うことができた事業として知られている。この実例を踏まえ、私たちからは3点の提案を述べる。①八王子市は住宅及び公共施設（主に学校）において積極的な太陽光発電の導入をしているが、我々はその他公共施設や大学など八王子市の特徴を活かした導入を検討できるのではないかと考えている。また②企業と牧場が協働し、エネルギーの地産地消に成功している例から鑑みても、このようなサイクルを他の牧場や農場で施行していく可能性も十分に考えられる。そして、③これら既存の事業に加え、民間の力を介入したものを、八王子市の独自性あふれるものとし、市が広報していくというシステムを構築するべきであると提案する。

4. 八王子の未来

これまで、八王子の太陽光発電における事業や省エネへの提案をしてきたのだが、ここではその二つを組み合わせた事業について提案する。それは、都内の方でも行っている「電動自転車のレンタル」

（図2参照）である。現在、都心の方に出向くと、大手の銀行のステッカーが貼られた電動自転車が、駅を出たところに置いてあったり、充電してあったりしている。これは、都心を駅から目的地までタクシーで移動するのではなく、近い場所なら電動の自転車を使っていこうという目的のために設置されたものである。このシステムを、私たちは八王子にも導入し、可能であるなら上記の提案したものと組み合わせたものを実現できればと考える。

例えば、大きなエコな買い物で、エコポイントがたまるとする。そのポイントは八王子市内に設置された電動自転車を利用する際に、ポイントで精算することができ、また、その電動自転車の充電は、外部からの充電と、近くに設置された太陽光発電による発電された電力を使用して充電され、クリーンな発電で得た電力を、電動自転車というクリーンな乗り物で消費するというクリーンな循環をすることができるのではないかと考える。



図 2

5. 結論

以上、ここまで八王子市における省エネ・創エネ、そしてそれらを組み合わせた取り組みに対し具体的な提案を行った。私たちが考える「持続可能な町」とは、単純にエネルギーを創出するだけではない。行政や企業はもちろんのこと、いかにして、八王子市に住む市民一人一人が主体的となり、10年先、ひいては何十年も先の八王子市のためにと、行動できるように働きかけていけるかが重要であると考える。環境問題の深刻さが浮き彫りになるなか、私たちの手で、八王子市をサステナビリティあふれるモデル都市にしていきたい。